



# 主旨説明（第4章 第2回国公立大学フォーラム： 「地域歴史文化の保全・継承と広域災害に備えた大 学間ネットワークの形成のために」）

奥村, 弘

---

**(Citation)**

地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備, 特別研究プロジェクト(平成24年度最終事業報告書):24-26

**(Issue Date)**

2013-03-31

**(Resource Type)**

research report

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005287>



## 第2回国公立大学フォーラム開催の主旨説明

奥村 弘  
(神戸大学)

奥村でございます。大学の地域連携推進室の室長と人文学研究科地域連携センターの副センター長を兼ねておりますので、今日はこのプロジェクト事業の責任者の立場から、最初に少し話をさせていただきます。

この事業も今年度で最終年度を迎えまして、その中で、先程もありましたように幾つかの成果が出てきております。今日はその成果と、それから今後こういうことをした私たちの神戸大学の立場から申しましてどうということが、全体的には単に神戸大学の課題と言うよりは、ここで一番問題になっている地域の歴史文化の中の課題なのかということ、今回、この国公立大学フォーラムという形で、全国の国公立大学の皆さまと一緒に考えてみたいと考えている次第でございます。

**事業概要** そういう点で、私たちの事業の概要と経過についてもう一度説明させていただきます。先程の理事の話にもありましたように、本事業には2つの柱がございます。1つは、地域の中で地域の、特に歴史文化の特性を強めていくために、そういう人々に対する支援。「能力の強化」と資料には書きましたが、そういうことをどうやって進めていったらいいのかということの具体的な・実証的な研究と言いますか、実践的な対応をこの事業の中では1つの大きな柱として進めていくことをしてきました（「地域リーダーの地域文化育成能力の強化」）。それからもう1つは、「大災害に備えて」というのは、私共は阪神・淡路大震災を経験したところでございますので、次の震災は必ず来るということを含めて、そのための地域の歴史遺産の保全。そのための情報基盤システムを形成することを考えているところでございます（「大災害に備えて、地域歴史遺産保全そのための情報基盤システム」）。



そのために、2010年6月に「地域歴史文化連携コンソーシアム」ということで、県内のさまざまな方に集まっていただきまして、こういう課題にどう対応していったらいいのかということについて議論を進めてまいりました。その中で、一番大きな事業としましては社会人向けの、やはり新しく展開していく時に、地域の中でそういうことを展開していただける方をいかに増やすのかということが非常に大事だということで、そのシステムを作っていこう。つまり「人材育成システム」と呼んでおりますけれども、その確立に向けた展開を進めていきたい。

それから2番目に「全県的な史料群データベース作りとそれに向けた環境整備」という形で、特に環境整備を、私たちはこのプログラムで重んじました。というのは兵庫県は、昨日の地域連携協議会でも少し述べましたが、非常に広域な県域がありますが文化に関す

る各自治体の取り組みは必ずしも強くなくて、博物館の専任職員が非常に少ない県。人口比で全国最低ではないかと思うのですが、博物館の専任職員が最も少ない県ではないかと思えます。そのような状況の中で、一体今、各地域の歴史文化は一体どうなっているのかを正確に捉えたいということがございました。それをはっきりさせないと、いくら史料群のデータベースだけを作っても実際には対応できないこととなりますので、環境整備のところに、少し実際の調査・研究を中心にしながら進めたところがございます。3 つ目には、何とか、できたものを支えるファンドを確立しなければならないということなのですが、ここが一番大変で。少し今、坂江（渉）さんたちと寄付という形の、それを上手く組織的に展開するシステムを考えなければいけない。少し展開は始めていますが、ここについては今のところまだ、端緒的に始めたところです。

この形を展開していくために、兵庫県と神戸大学の協定に基づいて、2011 年 1 月に県の教育委員会との覚書を締結しております。それで昨年度も国公立大学フォーラムを行わせていただきまして、そこで共通する課題について、全国の、特に国公立大学を中心に「地域文化大学連絡会」を作ることを議論いたしました。そういう形で 22 の大学が来られましたので少し連絡を付け続けていくということで、今年度に展開しています。今年は 14 大学ということになっているようでございます。

**成果と課題** この採択が行われてから、大きな変化がありました。一番大きな変化は、この採択の後に東日本大震災が発生したということがございます。そういう中で実は、全国的な地域の歴史文化への対応力の強化が、やはり緊急の課題として認識されるようになりました。特に東日本大震災によって、東北 3 県や茨城県・栃木県などで文化遺産に関する大きな被害が出ました。その対応もさまざまなレベルで、国から各自治体、さらにはボランティアまで含めて大きな活動が行われてきました。それに関しまして、2 年にはならないのですが、一旦ここでまとめをするというのが文化庁等——この間、被災文化財等救援委員会というのがありまして、そのまとめが今年に入りまして始まっています。1 月 23 日にあって、次は明日 2 月 4 日、最後は 2 月 22 日にあるもので、私も 1 月 23 日にマネジメントをこういう時にどうするのかということで報告させていただきました。全体としてそういう動向の中で、「それでは一体、大学はどうするのか」ということが求められているように思います。

**全国的な動き** いつも使っている資料ですが、東日本大震災を含め、全国で歴史資料の保全を進めた団体がございます。多くの全国のこの団体の中で幾つか、例えば山形であるとか、現在はむしろ大学から離れたところに、大学にいろいろな形で協力をお願いしていますが、外に事務局があるところがございますけれども、全国の多くの団体は中核的な国公立大学に拠点を置きながら、その地域の私立大学とフォーラムを組む、コンソーシアムを組むという形ででき上がった土台の上に、更にそれに博物館や県の文化財課などが入った形もありますけれども、1 つの団体を組んで、県域を中心としながら文化遺産を守るという形になってきております。東日本大震災では、そういう形の団体が協力しながら被災地全体の対応をするという状況も、今、生まれてきているところがございます。

**国公立大学が地域文化にはたす役割** そういうことを考えます時に、やはり全国の国公立大学の持つ、地域歴史文化に関する潜在的な力というものが大規模災害の場合には、それなしにはおそらく日本各地にある地域の文化遺産を守れないという状態にあるかと思いま

す。勿論、そのこと自体がこの救援委員会の活動をまとめる中では十分に表れてこないというところがございます。今日も、そういうことを含めて、私共の大学の持つ、さまざまな地域での文化的役割、そしてその意味を含めて深めていければと考えております。

**地域文化や歴史資料の置かれた状況** そういう点で、午前中に行います板垣（貴志）報告では、「日本の縮図」と言われる兵庫県の多様な状況を把握していく、ということをやってきましたので、その報告をいたします。そういう状況を含めて、今日は各地の大学からもご参加いただいていますし、県内からもご参加いただいていますので、日本の地域社会の中で文化の問題に何が起こっているのかを正確に把握していくことを1つの目的にしたいと考えているところです。

**人材の育成システムに向けて** それからもう1つは、「新たな人材育成システムの開発」の問題でございます。これは神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターでは、学生の育成プログラムとしてはこの間GPを何度もいただきまして、それを作ってまいりました。この特別研究の中ではむしろ、それと併せた形で行われる社会人のプログラムの開発も展開してきました。社会人の方々とどういふかたちで歴史文化を支えていくのかということとは、やはりこれも学生と社会人の両方を併せて私たちがどういふふうにして考えていくのかということが今、課題となっているのは、神戸大学だけではなくて、全国の大学の中で考えられている問題ですし、共有していかなければならないことだと思っています。それについて村井（良介）報告では、神戸大学の事例として報告し、午後に各大学の取り組みについて、議論させていただけたらと思っています。

**学芸員の養成課程の変更** この間、学芸員に関する養成の課程が少し変わりました。さまざまな名前の付いた、よくわからない…と言ったら文化庁の宇田川（滋正）さんに怒られるかもしれません。名前も含めて、単位数がすごく増えたのですけれども、こういう日本の状況の中で、では本当のところ何が必要なのかというところが本当に上手く噛み合っているのかということもございます。私共としては、そういう学芸員の養成や社会教育等への展開、昨日の地域連携協議会の中では、小学校の先生・中学校の先生の役割も大きな話題となりました。そういう点で、そういうことについて非常に展開されている大学の方も来られていますので、そういうことについても考えていければと思っています。

**文化庁と大学との関係** それからもう1つは、先程も出ていきましたけれども、全体として、来年度以降に関しては大学と文化庁の関係も少し新しい動きがあるように、この間、いろいろな形で聞いております。勿論いろいろな補助金の問題やさまざまな関係がありますけれども、やはり何か少し、国公立大学の歴史文化に関わる部分と、それから文化庁との間で少し議論ができるパイプと言いますか、そういうものをずっと展開していくことも、私は非常に大事ではないかと思っています。今日もそのような点で、文化庁から宇田川さんに来ていただいておりますが、そういう全体的な、継続的な取り組みをどう進めていったらいいのか、そういう視点についても、最後に少し議論ができればいいのではないかと考えている次第でございます。

以上、大体今日のフォーラムではこのようなことを議論していきたいと思っています。人数もそれほど多くありませんし、それぞれの専門家の先生方がかなり来られておりますので、忌憚のないご意見をいただければと思っていますので、よろしく願いいたします。